

## 事業実施方針

日本銀行北九州支店が2017年2月3日に発表した管内金融経済概況では、「北九州・京築地区の経済は、緩やかに回復している。生産をみると、自動車の海外向けが大幅に増加しているほか、国内向けも新型車を中心に高水準で推移しており、鉄鋼（高炉）、電子部品も自動車向けを中心に増加している。一方、化学、セメントに関しては弱含みで推移している。輸出は、北米向け自動車を中心に増加している。設備投資は、先行きの需要見通しが一頃に比べるとやや慎重な非製造業を中心に、幾分弱含みである。個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては持ち直しつつある。住宅投資は12月と同様に堅調に推移している。」としている。

こうした経済情勢の下、北九州港の平成28年海上出入貨物取扱量の推計は約1億トンで、前年と比較して微減の見込みである。中国との直接取引では貨物量は増加しているが、オーストラリア、ブラジルなど資源国からの輸入貨物が減少している。

一方、コンテナ貨物取扱量は、平成24年以来4年ぶりに50万TEUを越え、前年より増加する見込みである。

今後に関しては、内閣府の景気動向の調査「景気ウォッチャー調査」の基調判断によると「持ち直しが続いているものの、一服感がみられる。先行きについては、引き続き受注や求人増加等への期待があるものの、海外情勢への懸念の高まりがみられる」と示されているように、景気の動向を注視しつつ、北九州港の活性化に結びつくよう、北九州港一丸となった一層の取組みが求められる。

当協会は、一般社団法人として法令に従い一層適切な法人運営に努めるとともに、北九州市、会員企業、海運港湾関係団体と協力し、また、関係行政機関の指導支援を得ながら、北九州港の振興活動や市民PR事業を積極的に推進し、北九州港ひいては地域経済発展に寄与していく所存である。

そして、平成29年度は、以下の基本方針で様々な振興活動等に取り組んでいく。

第一に、北九州港の振興対策として、みなと振興懇談会などを開催し、港湾管理者等との意見交換により民間の立場から改善案等を提案する。

第二に、北九州港の機能発揮と利用促進のため、啓発宣伝活動、ポートセールス事業に積極的に取り組む。

第三に、北九州港に関する最新情報の発信や物流・経済に関する研修会の開催、会員交流の場の提供等、会員向サービスの向上に努める。

第四に、「未来へきれいな海・海岸」を引き継ぐために、北九州市・港湾関係団体と協力して港や海岸周辺の清掃及び啓発活動を実施する。

## 事業計画 事業項目名に続く（ ）内は実施予定時期

### 1 振興対策事業

北九州港の整備及び振興対策について、企業や市民の立場から施策を提案する。

#### (1) みなと振興懇談会（1月）

地域経済の発展に寄与するため、北九州港及び北九州空港の整備や振興対策、今後の課題などについて、当協会正副会長と北九州市港湾空港局幹部職員で意見交換等を行う。

#### (2) 北九州港港湾調査データ作成業務（通年）

港湾事業者等から提供された申告書を規定フォームへ入力し、統計法に基づく港湾統計データを集計する。（北九州市からの受託事業）

### 2 啓発宣伝活動事業

年間を通して、様々な啓発宣伝活動を実施する。

#### (1) 北九州港セミナー（10月）

北九州港のPRと一層の利用を促進するため、荷主や船社などの北九州港のユーザーを対象に首都圏等でセミナーを開催する。

- 主催 北九州港航路集荷対策委員会、（一社）北九州港振興協会ほか
- 開催地 東京等

#### (2) 海外ポートミッション

海外の港湾施設を調査研究するため、会員を対象に視察研修を実施する。

- 訪問地 海外の先進主要港湾等
- 参加者 会員

#### (3) 記念品の製作・販売及び頒布（通年）

北九州港のPRを促進するため、北九州港のシンボルマークやマスコットキャラクター「スナQ」をデザインした記念品等を製作・販売し、イベント等で頒布する。

- 頒布品 付箋、缶バッジ等

#### (4) 海外ポートセールスミッションへの参加

北九州港のPRと航路を誘致するため、海外の主要船社や商社など訪問する海外ポートセールスミッションに参加する。

- 主催 北九州港航路集荷対策委員会

(5) 歓迎訪船（通年）

歓迎のメッセージを伝え、北九州港をPRするため、初入港した船舶や新規航路の第一船などを対象に歓迎訪船を実施する。（北九州市との共同事業）

(6) 第13期北九州ポート・アテンダントの募集（4月～9月）

北九州港をPRする第13期北九州ポート・アテンダントの一般公募、選定、採用、研修を行う。

(7) 北九州ポート・アテンダントの活動（通年）

北九州港をPRするため、各種式典やセミナー、イベントなどの司会や歓迎訪船の花束贈呈などポート・アテンダントの活動を行う。

(8) 北九州港オリエンテーション（4月）

港湾業務の基本を学ぶため、会員企業の新入社員等を対象に、港湾や貿易などに関する研修講座と太刀浦コンテナターミナルなどの港湾施設の見学を実施する。

(9) 港湾整備事業説明会（6月）

北九州港に関する情報を発信するため、各年度の北九州港の整備事業や将来計画などについて、会員を対象に、国、市が直接説明する事業説明会を開催する。

■ 講師 国土交通省九州地方整備局、北九州市港湾空港局

(10) 港湾セミナー（1月）

世界の港湾の最新情報や物流動向、関連する経済情勢などを学ぶため、会員と市民を対象に講演会を開催する。

(11) 北九州港・みなとまちづくり事業（通年）

北九州港の役割や海辺の魅力などを市民に周知するため、様々なイベントを通して積極的な情報発信を行う。（北九州市からの受託事業）

①船舶公開

海や港、船についての理解を深めるため、独立行政法人海技教育機構練習船（汽船）を招き、市民を対象に船内を一般公開する。

②みなとのにぎわいづくり事業

北九州港を発着するフェリー等を活用して巖流島において北九州・下関両市民を対象としたイベントを開催し、港の賑わいを創出する。

③クルーズ船おもてなし事業

北九州港へのクルーズ船寄港定着化を図るため、岸壁で歓迎行事等を実施する。

④北九州港マスコットキャラクター「スナQ」を活用した広報業務

インターネットを使った情報発信、市内イベントへの着ぐるみ出演及びイラスト等を活用した北九州港広報用ツールの作成等により、北九州港のイメージアップを図る。

(12) 北九州港市民モニタークルーズ事業

北九州港に発着する内航フェリーを利用したクルーズを提供することにより、多くの市民が「船旅」を身近に感じる機会を創出し、フェリーを利用して市外から訪れる旅客に北九州市の魅力を発信する市民モニタークルーズを実施する。当協会は実行委員会の事務局を担当する。

(市民太陽光発電所・市民還元事業)

(13) クルーズ船寄港定着化事業

北九州港へのクルーズ船寄港定着化を図るため、九州クルーズ振興協議会等に参加し、活動を行う。

(14) みなと見学会

物流拠点としての港と日常生活のつながりを理解するため、市民を対象に倉庫等の見学会を開催するとともに、太刀浦コンテナターミナルの見学ガイドを行う。

(15) 「海の日」協賛会の行事（7月～10月）

海事海洋思想を普及するため、関門港ポート天国、海事功労者表彰式典、海の写真展、絵画コンクールなどの行事を開催する。

当協会は「北九州・海の日協賛会」の事務局を担当するとともに、次の事業を実施する。

- ①ウォーターフロントクリーンマナーアップ作戦
- ②花火大会（くきのうみ花火大会、海峡花火大会）への協賛等

(16) 海の日・海峡クルージング（8月）

北九州港の役割や海辺の魅力などを周知するため、市民を対象に、大型フェリーを利用して、関門海峡の体験航海を実施する。当協会は実行委員会の事務局を担当する。

(17) 定期刊行物の発行（通年）

北九州港に関する情報発信とPRするため、会員及び市民等に向けて、定期刊行物等を発行する。

- ①機関誌「北九州港」 年1回 1000部
- ②北九州港ニュース 年6回（偶数月）（オンライン）

(18) ホームページ（通年）

広く北九州港に関する情報発信とPRするため、ホームページを更新管理する。

### 3 港湾関係共益事業

船員、港湾労働者をはじめ海事・港湾関係者のための福利厚生事業を実施する。

(1) 戸畑船員サービスセンターの管理運営

海事関係者の利便性の向上を図るため、戸畑船員サービスセンターを管理運営する。

(2) 港湾振興協会等事務連絡会（11月）

港湾振興に関する共通課題の検討や情報交換などを行うため、国内主要港の港湾振興団体の連絡会に参加する。

■ 参加港 東京、川崎、横浜、名古屋、大阪、神戸、北九州、博多

(3) 役員・会員交流サロン（9月～12月）

当協会の役員相互及び会員相互の交流を促進するため、企業視察や交流会を通じて親睦を深める「役員交流サロン」及び「会員交流サロン」を開催する。

(4) 国際ビジネス支援事業（6月～11月）

国際化に対応する人材を育成するため、会員を対象に貿易実務や語学の講座、国際法務セミナー等の研修会を開催する。

(5) 新年賀詞交歓会（1月）

新年を祝し、北九州港の発展を祈念するため、海運・港湾7団体（関門港運協会、小倉地区港運協会、洞海港運協会、八幡港友会、九州水曜会、門司エーゼント会、当協会）の共催で賀詞交歓会を開催する。

4 港内美化事業

未来へきれいな海、海岸を引き継ぐため、港湾関係団体と共同で清掃活動等を実施する。

■ ウォーターフロントクリーンマナーアップ作戦（再掲）など

5 駐車場事業

海運・港湾事業者や観光客などの利便を確保するため、北九州市から未利用地等を借地し、有料駐車場として管理運営する。